

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570201170
法人名	有限会社 未来企画
事業所名	グループホームオルゴール
所在地	宮崎県都城市吉尾町111-1 (電話) 0986-38-0552
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 22 年 1 月 20 日

【情報提供票より】(21年12月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 6 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 9 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / <input checked="" type="checkbox"/> 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000

(4) 利用者の概要(12月21日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	7 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.8 歳	最低	73 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ふくしまクリニック、中央歯科、田中歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは市内の郊外に位置するが、近くには国道が走り交通量も多く、さまざまな工場や会社などが立地する中に、ひっそりとたたずんでいる。また近くには介護の専門学校などもあり、日頃から学生のボランティアを受け入れることができる環境にある。広大な敷地の中に芝生のスペースもあり、利用者は屋外活動を楽しんだり、地域住民との交流をする場所になっている。医療機関との連携も密に取れており、利用者や家族は生活の場として安心して過ごすことができている。また職員も日々利用者とのふれあいの中で、喜びを感じながらケアにあたっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善計画シートは作成されていないが、介護計画の見直しは3か月ごとに行い、モニタリングも毎月できている。しかし鍵をかけないケアの実践は、法人の方針として、利用者の生命を第一に守るべきものとして、日常的に玄関の施錠をおこなうことが慣例化されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、管理職だけでなく、他の職員も自己評価の項目を確認しながら評価に当たっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、ホームの運営状況や利用者の状況等の説明を行うようにしている。また前回の外部評価の報告をおこない、改善していくために委員からの意見を参考にしている。他の職員には会議の内容を、ユニット会議等で報告するようにしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	定期的に発行している便りの「アングンテ」を家族に送り、利用者の日々の状況を報告している。また随時に利用者の状況等について、面会時や電話等で報告するようにしている。家族からの意見や苦情はほとんどないが、意見があった場合には職員会議で検討したことを迅速に家族に報告し、ホームのケアのあり方についての参考にしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、公民館活動を中心とした地域行事にも積極的に参加している。また中高生のボランティアや体験学習等の場としてホームの機能を還元している。近くの介護専門学校との交流やボランティアの受入れも積極的に行なっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム設立時からの理念であるが、基本理念の後に理念綱領が盛り込まれており、住み慣れた地域で安心して暮らせるための項目となっている。また理念とは別にユニットごとのケアの理念も掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関やパンフレットに明示しており、職員は常に理念を確認できるようにしている。また毎日のミーティングでの唱和やリーダー会議にて理念を確認することで、職員の意識の高揚を図るようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入して、公民館活動を主体とした地域の行事に職員自ら参加することで、ホームに対する理解を得るための働きかけをおこなっている。また小中学生や近くの専門学校生のボランティアの受入れを積極的におこなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、他の職員の意見も参考にしながら作成しており、管理者以外の職員も自己評価の内容については周知している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の会議を定期的で開催しており、ホームの運営や利用者の状況についての報告をしている。また外部評価についての改善に向けた意見もあり、職員会議にて意見を参考にした検討をおこなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者との連絡等は、事業統括者または管理者が行ない、制度や運営に関する件についての相談等を随時行なうようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には定期的な機関紙(便り)を送付して、ホームの事業や利用者の様子を伝えるようにしている。また家族の面会時や電話等にて随時報告することで家族は安心感を得ている。職員は常に家族とのコミュニケーションを大切にしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置しているが具体的な意見はない。家族からの意見については、迅速に職員会議で検討したことを伝えるようにしている。家族との日頃のコミュニケーションが、家族の意見を引き出すための機会になっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はあまりないが、異動の際には予め利用者伝えるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へは積極的に全職員を参加させる取り組みがある。外部研修の報告会を職員会議を利用することで、内部研修の機会としている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者や介護保険施設とは、日頃から運営に関することや利用者のケアについての情報交換などで、付き合いができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の入居前に本人や家族との面接を行い、十分にホームの状況を説明する機会を設けている。また入居後も利用者の動揺軽減のために、家族の協力を得るようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から昔の習慣などを聞いたり、調理方法などを学んだりすることで、生活の中で共に生き、共に過ごすことの大切さを実感している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常の業務の中で、利用者とのコミュニケーションを図りながら、思いや意向を聞くようにしている。またユニットごとに職員の勤務シフトを組んでいるので、利用者が安心して職員に相談できる体制ができています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成のためのカンファレンスには、職員以外に家族の参加もあり、利用者の意向や思いをプランに活かすことができている。また職員は日頃から利用者支援の方法やサービスの内容等についての意見を出し合うことで、介護計画作成の参考にしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3か月ごとの定期と、利用者の状態変化に応じて随時に見直しをしている。また介護計画のモニタリングは毎月の支援経過の中で評価している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診の際は家族が対応できない場合に、ホームで送迎や付添をしている。また家族も必要に応じて宿泊できるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームは、利用者個別のかかりつけ医と利用者の健康状態についての連携を常に図るようにしており、協力医療機関と併せて、利用者や家族が安心して医療が受けられるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしての看取りの方針はできていないが、看取りの指針はできており、利用者家族に説明している。本人又は家族のニーズがあれば、看取りについても考慮していくことを明確にしている。また職員は介護の限界まで、ホームでお世話したいという考え方を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は尊厳のケアを基本にして、ホームの理念や、ユニットスローガンに掲げてある支援の方法や個人情報を大切にされたケアを現場に活かすようにしている。また利用者台帳等は、利用者や来客の目に触れることのないように管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個別の意向や希望を尊重し、利用者が日々楽しく過ごすことができるための寄り添いケアを、職員一人ひとりが実践するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事介助が必要な利用者もおり、同じ食卓で利用者と職員が食事をする事ができていない。利用者は食材の皮むきや後片付けなど、職員と一緒にできることをおこなっている。	○	利用者と職員は、食事の準備や食事を一緒にしていくことで、楽しみごとが増えるような支援の方法についての工夫をしてほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は週3回の入浴を基本にしているが、利用者のニーズに応じて、回数や入浴時間帯の臨機応変な対応ができるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個人ができることの支援として、洗濯物たたみや食器洗いなどを、個別の役割として楽しみを持っていただくように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節的な外出も計画されているが、ホーム内の芝生の敷地を利用したアクティビティ活動をおこなうことで、利用者の気晴らしや生活リハビリの一環としている。また近所への散歩も個別に対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関は日中も施錠してある。ホームの方針として利用者の生命と安全を守ることを目的としており、職員や家族も施錠することに違和感なく、日常的なこととしてとらえている。	○	ホームで生活する利用者の権利擁護の視点から、施錠に頼らないケアについて前向きに検討していただくことを期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害訓練は年2回実施しているが、訓練への地域住民への声かけや参加はない。	○	災害時の協力を得ていくために、近隣の住宅やアパートの住民等への呼びかけや、訓練への参加や見学等について、積極的なアプローチを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は利用者の嗜好を確認しながら職員が作成している。また利用者個別に医師の指示があれば、栄養士の助言を受けるようにしている。日頃の食事や水分の摂取量は、毎回チェック表に記載し、健康管理の指標としている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりのよい食道兼ホールには、利用者が会話や余暇を楽しむための畳の間もある。またホールや廊下には、ホームの行事の写真や、利用者手作りの風景画が飾られており、和やかな雰囲気のある工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた家具や仏壇などが持ち込まれており、個性を重視した居室となっている。		